

令和4年度 学校経営計画・学校評価

4月5日提出 10月3日提出 3月15日提出

学校番号	45	高知県立中村高等学校西土佐分校	課程	全
------	----	-----------------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	取組の方向性	①チーム学校の推進 ②厳しい環境にある子どもへの支援や子どもの多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携・協働
目指すべき姿	学校像 ○ すべての生徒が安全に安心して学び、活動できる学校 ○ すべての生徒が自分の居場所を見つけ、役割を感じられる学校 ○ 生徒、保護者、地域、教職員がつながる学校 ○ 故郷を愛し、故郷の未来を担う若者が育つ学校 ○ 教職員がワークライフバランスを実感し、仕事に充実感を得られる学校 生徒像 ○ 学ぶ意欲と挑戦する意欲にあふれ、進路目標を達成できる生徒 ○ 互いに認め合う豊かな心と感謝の気持ちを持ち、地域に貢献できる生徒 ○ 故郷や自然、仲間を大切に、「つながる」意識を持ち、地域の未来を担う生徒 ○ 規範や規律を意識し、基本的なマナーが身に付いた生徒	目指すべき姿を実現するための取組等	・チームとして生徒を支援する組織の充実 ・基礎基本を重視した授業展開 ・多様な評価基準の設定 ・達成感や充実感を得られる授業や活動の工夫 ・「学び」のモチベーション向上 ・規範意識の醸成 ・年3回以上の学校運営協議会の開催 ・「役に立っている」意識の育成 ・地域に貢献する意識の育成 ・周囲を思いやる心の育成 ・連絡し、報告し、話し合う組織づくり

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【     】
【社会性の育成】	評価 【     】
【チーム学校】	評価 【     】

《重点項目：生徒に対する取組項目》

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標を概ね達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	○基礎的・基本的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○主体的に学習に取り組む態度(学習習慣を含む)	・基礎力診断テスト等におけるGTZのD3層の割合 10%以下 ・各種検定等の取得者数(取得率) 30%以上 ・定期考査における思考力・判断力・表現力を把握する問題の正答率 60%以上 ・「自主学習の仕方が理解できている」生徒 70%以上 ・「授業外でほとんど学習しない」生徒 10%以下	・授業改善 ・定着に向けた小テストの改善 ・生徒に思考・判断・表現させる機会の確保 ・自主学習ノートの取組 ・「学び方」や「自分にふさわしい学習方法」の指導 ・教科別面談 ・進路を意識させた「学び」のモチベーションアップ ・学習支援員の活用と充実 ・各種検定試験に積極的に挑戦				
社会性の育成	○コミュニケーション能力(かかわる力) ○キャリアデザイン能力(やりぬく力)	・「相手の気持ちを考えながら、自分の考えや気持ちを分かりやすく相手に伝えることができる」 70%以上 ・「物事に取り組む際には、目標を立て、その達成のために努力できる」 70%以上 ・「物事が計画通りに進まないとき、どうすればよいのかを考え、乗り越えようとしている」 70%以上	・SC、養護教諭による仲間づくり授業等の人間関係づくりの機会の確保 ・地域協働学習(地域課題解決学習) ・学校行事(体育祭、文化祭等) ・保育園、小中学校、福祉施設等との連携				

《チーム学校：教職員が取り組む項目》

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
授業改善	ICT活用が教員の授業技術に活かされ、学力向上に繋がることを目指す。また、どのような場面でもどのようにICTを活用すれば、学力が身に付くのかを考えた授業づくりの実践を目指す。	・「学習のねらいが示されている」回答割合 90% ・「学んだ知識を基に、自ら考え、まとめたり、発表したりする機会がある」回答割合 90% ・「学習活動を自ら振り返る場面が設定されている」回答割合 90%	・教員の校外での授業改善研修会への参加 ・授業改善、評価に関する校内研修(年2回)に実施 ・相互授業参観の充実 ・生徒の苦手としている分野と取組について、教科を超えて共有し、改善策を全教員で考える。				
生徒理解 生徒支援	傾聴することを最優先に考え、ほめることで自尊感情や自己有用感を育て、能力ややる気を引き出す。注意することで、気づかせることや規律を守る心や態度を育てる。	学校評価アンケートより ・「自主活動、行事・学習活動に積極的に参加している」生徒 80%以上 ・一人ひとりに応じた進路指導ができていく。 100% ・生徒の悩みに適切に対応している。 90%以上	・校内支援会、いじめ対策委員会の充実 ・日々の観察で常に見守り ・アンケートと面談で確実に把握する ・アセスを用いた生徒理解・支援 ・校内支援体制に係る生徒情報を共有 ・巡回相談員派遣事業及び教育相談の活用 ・SC・SSWによる授業参観				
学校の振興	生徒数の単純な増加にこだわらず、生徒の成長を地域とともに見守り、喜べる学校づくり。	・学校独自のアンケートによる評価 ・カヌー部の成績(全国入賞を目指す) ・ラボールの活動回数と評価 ・分校農園利用の地域連携の回数と評価 ・就職・進学実績	・発掘・発展にむけて(地域協働学習)の充実 ・ラポールとカヌー部・卓球部の活動の充実 ・分校農園を活用した地域との連携 ・学校運営協議会の意見等を反映させた学校運営 ・国公立大学等への挑戦 ・地域と一体となって魅力化、特色化を目指す				
働き方改革	教職員がワークライフバランスを実感し、仕事に充実感を得られる学校をつくる。 ・教材の共有で授業準備の時間短縮。 ・グループウェアの利用や会議資料のペーパーレス化。	・学校行事等のスクラップ ・教職員が共に協力し助け合う雰囲気づくり(チーム学校) ・部活動活動日と適切な休養日の把握 ・校務の情報化に努める。 ・容易にコピーを作り、瞬時に共有できる。 ・ペーパーレス化により、印刷の手間や時間を削減。 ・グループウェアの利用による業務の効率化。	・行事等のスクラップ ・運動部・文化部の適切な休養日設定とその遵守 ・生徒の居場所、役割の確立(開発的生徒指導の実践) ・地域との連携や依頼 ・管理職は、教員の勤務状況を把握し、業務の標準化を図る。				